

令和6年度 みえ現場 de 県議会 「SDGsにも貢献する森林・林業」実施概要

1 日時・場所 令和7年2月14日（金）14時00分～16時20分
熊野市文化交流センター 多目的ルーム

2 テーマ 「SDGsにも貢献する森林・林業」

森林は、水源の涵養、地球温暖化防止、木材の生産などの多面的な機能を有しており、SDGsにはその達成に向けて、森林・林業・木材産業に関連するさまざまなターゲットが含まれています。

三重県では「災害に強い森林づくり」と「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるため、平成26年4月1日から「みえ森と緑の県民税」を導入しています。また、国では平成31年に森林環境税と森林環境譲与税が創設され、森林環境譲与税の県や市町への譲与開始から5年が経過するとともに、本年度からは森林環境税の賦課徴収も始まっており、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する仕組みが本格的に動き出しています。

このような社会情勢の中で、本県における森林整備の取り組みの現状と課題、SDGsとの関わりなどについて関係者の方々と意見交換を行い、森林整備の促進等に向けた議会での議論に反映させていきます。

3 参加者等

○関係者 [6人]

《林業関係者》

晃榮林業株式会社 取締役 ^{はまぐち} 濱口 ^{ちほ} 千穂 氏

三重くまの森林組合 代表理事組合長 ^{まえ} 前 ^{さだのり} 貞憲 氏

《林業関係団体》

公益社団法人みえ林業総合支援機構 専務理事 ^{ののだ} 野々田 ^{としろう} 稔郎 氏

《木材利用関係者》

松阪木材株式会社 代表取締役 ^{くぼ} 久保 ^{さとる} 覚 氏

株式会社 nojimoku 代表取締役 ^{のじ} 野地 ^{のぶたか} 伸卓 氏

株式会社 KISE 湯谷建築設計 代表取締役／一級建築士 ^{ゆたに} 湯谷 ^{こうすけ} 紘介 氏

○県議会議員（下線は広聴広報会議委員） [10人]

議長 稲垣 昭義 座長(副議長) 小林 正人

環境生活農林水産常任委員長 廣 耕太郎

委員 荊原 広樹 委員 伊藤 雅慶 委員 東 豊 委員 藤根 正典

委員 松浦 慶子 委員 芳野 正英 委員 龍神 啓介

○傍聴者 [14人]

4 プログラム

- 1 開会あいさつ
- 2 趣旨説明
- 3 参加者紹介
- 4 意見交換
- 5 閉会あいさつ

5 主な意見等

《森林整備の取組について》

持続可能な循環型林業の確立の観点から

- (1) 山に対する投資意欲が無くなっており、山林所有者から買い取り希望の問い合わせが多いが、すべてを購入できるわけではない。木材が出せない山林が増えている。
- (2) 熊野の山は岩山が多く急傾斜でリスクが高い。三重県は人件費も高く、全国一律の補助金体系をとられても熊野では同じような経営はできない。
- (3) 木を伐ったあとは必ず再造林を行っている。大きめの苗を植えて下刈り回数を減らすなどしてコスト削減に取り組んでいる。コンテナ苗の使用についても検討している。
- (4) 和歌山県や奈良県の施策を調査し、補助金制度や研修制度など良いものを取り入れてほしい。
- (5) ドローンの活用にも取り組んでいるが、測量の面では精度が、また、資材運搬の面では高額な費用が課題。使い勝手のよい支援を期待する。
- (6) 以前の県職員は、現場を訪れ、事業者とよく話し合っていたが、今は事務作業に追われその余裕がないと感じる。山を訪れ現場を見て施策に反映してほしい。
- (7) 川上に位置する当森林組合は、伐採跡地で裸地化した山林は出来る限り保安林の指定を受け、それにより植林・下刈・除伐・間伐などの費用を確保し、適正管理を行うことで災害リスクを減らすよう務めている。
- (8) 山林所有者には、自分たちの山が、みえ森と緑の県民税や森林環境譲与税の対象地域になった場合には、必ず手を挙げるように伝えている。市町に預けて未整備森林を手入れしてもらえることは所有者にとってもありがたいこと。山林が生き返ることになる。
- (9) 林業事業者が昔からやっていた生業がSDGsを通じて森林の機能に貢献していることを広く知ってもらうことは必要。
- (10) 三重県の林業は、三重県らしい利益拡大の方策とは何かを考えていくべき。コストの削減は必要なことだが、必ずしも利益拡大にはつながらない。
- (11) 循環型林業を確立するためには植林できるだけの利益が上がらなければならない。どのような補助金をどこへ持っていくか、これまでの間伐施業を皆伐施業へどう変えていくかという議論が必要。木材の量が増えた結果、値段が下がっては意味がない。
- (12) 林業は木を植えてから収穫まで50～60年かかる。植えた人が収穫しないので原価が分からなくなる。国産材の最低価格のようなものがはっきりすると循環型林業の議論ができるのかもしれない。

《森林整備の取組について》

林業の担い手の確保・育成の観点から

- (1) 県内の林業就業者の数は、平成初期には3,000人程度であったものが近年は1,000人程度で上下している。下げ止まったのではないかと感じているが、現場では人手が足りていない現状がある。

- (2) 聞くのと見るのとでは大きく違うというミスマッチがかなりあり、実際に就業しても3カ月ほどで辞めてしまうなどの例もある。林業の現状をしつかりと伝えられるPRの必要性を感じている。
- (3) 林業の事業体によっては地元の高校と提携して毎年必ず1人、2人は採用しているところもある。
- (4) 他業種の条件と比べられると、なかなか選んでもらえない現実がある。
- (5) 大学等への進学率も上がっており都会へ出ていく若者が多い。地元に戻ってきたときに林業が職業選択の一つとして認識してもらえるように、高校生を対象にした体験ツアーなどにも取り組んでいる。
- (6) コロナ禍の一時は都会から田舎への動きがあったので林業の就業フェアでも人が集まっていたが、今は逆流が始まっており就業フェアでも随分人が少ない。
- (7) 福利厚生の実施にも取り組んでおり、門戸は大きく開いているが叩いてもらえない。
- (8) 小学校の授業の一環で子どもたちに林業を体験してもらっている。山を見て足を踏み入れ実際に林業を見るという体験は、子どもたちにとって貴重なものだと思う。一人でも将来の担い手になってくれればという希望もっている。行政としても推進してほしい。
- (9) 地元の学校と何度か林業教育を行ったことがある。やはり実際に体験することは大切。しかし、山は危ないという意識や日々の学校教育のスケジュールなどで、なかなか現地に来てもらう機会が続かない。森林教育の推進を教育委員会に促してほしい。
- (10) 林業を知らない都会の子に短期バイトで植林活動をしてもらった。その感想や意見を今後に反映していきたい。人材確保は永遠のテーマだと思うので知恵を絞っていい方向につなげていきたい。
- (11) 現場の職員たちもいずれ現役を引退することになる。その間に担い手が入ってこないと技術を教える指導者がいなくなる。危機感を持って取り組まなければならない。
- (12) 高性能の林業機械を導入すれば木材が山から出てくるわけではない。山に登って木を伐って土場まで降ろしてくる人・技術が一番大事。紀伊半島の架線集材の技術は日本一だと思う。その技術が確保できているから、これだけの木材量が出ていることを分かってほしい。

《森林の活用の促進について》

木材利用の促進の観点、県民・企業の意識醸成の観点から

- (1) 営業活動も兼ねて県内市町の学校を歩いたことがあるが、残念ながら木造・木質化に興味がない地域もある。木に触れる木育の観点からも学校施設は国産材を利用した木質化を推進してほしい。
- (2) 木材業界はPRが下手な業界だと改めて思う。木で家を建てるのは高いのではとよく聞くが、今は鉄骨造よりも安くできる。
- (3) 三重県の木材の素材需要は伸びているが、単価の高い製材用の木材の需要が減り、合板やバイオマス向け木材の需要が増えている。林業・林産業の利益拡大のためには木材の売価アップが一番重要。

- (4) 木材がいくらで売れば林業が良い状態だといえるのかが分からない。県として木材価格の上昇を目標設定しないのか。林業に対して経営的な戦略が必要ではないか。
- (5) 素材を余すことなく使うためにバイオマスや合板工場なども活用していく一方で、素材の付加価値を拡大していくために製材業の成長を図るという、2つの戦略が必要だと思う。
- (6) 県や市町、事業者がバラバラに動いていて一貫性がないことが問題。あるべき姿が何なのか議論を深め、目標設定し、それに向けて計画を作っていく必要がある。
- (7) 丸太は原材料、木材は製品として分けて考える必要がある。素材を活用して今の市場に受け入れられる製品を開発し、それをプロモーションすることが重要。皆の意識をオリジナリティ溢れる製品開発に向かせるような県の支援があるといいと思う。
- (8) 全国的に、良い木が採れる産地に小規模の製材工場が集まっている。木を製材するためには職人の技術が必要だからであり、装置産業化すると付加価値が上がらない。そうした産地の林業が成長産業化するための目標設定とは何かを考える必要がある。
- (9) 屋内で靴を脱ぐ日本人の生活様式からすると、やわらかく足ざわりの良いスギやヒノキが適していることを伝えている。
- (10) 外国では場所によっては建築物に使う素材が制限されることもあるが、日本ではそういった制限は少なく施主の価値観によるところが大きい。建物に木を使うことが、いかに理に適っているかを伝えていかなければならない。
- (11) よく川上から川下といわれるが、その先の海は消費者だと思う。一般の消費者も林業のことや製材のことを知り、自分たちの生活がいかに環境とつながっているかを理解する必要がある。川上から川下がもっと近づいて話をし、一緒に取り組まなければならないと考えて動いている。
- (12) 山に価値がなくなり山林所有者が山を捨ててしまった状態にある。J-クレジット制度がお金になりはじめて山に価値が付きはじめると、山への興味が戻ってくるのかもしれない。
- (13) 国内で高級材を扱う市場はウッドピア松阪しかないといわれるようになっている。宮崎や東北のような大量生産大量消費とは違う、三重県なりの方法があるのかもしれない。
- (14) ブランディングは自画自賛では意味がない。外部から三重の木が良いと言われるようなマーケティングを仕掛けていく必要がある。
- (15) 木材の輸出については、課題は山積みだが可能性は感じている。
- (16) 日本のスギは世界で一番安い。山に還元したいのであれば付加価値をつけて高く売る必要があるが、現状は安さが求められている。

アンケート結果

○当日の参加者・傍聴者 30人

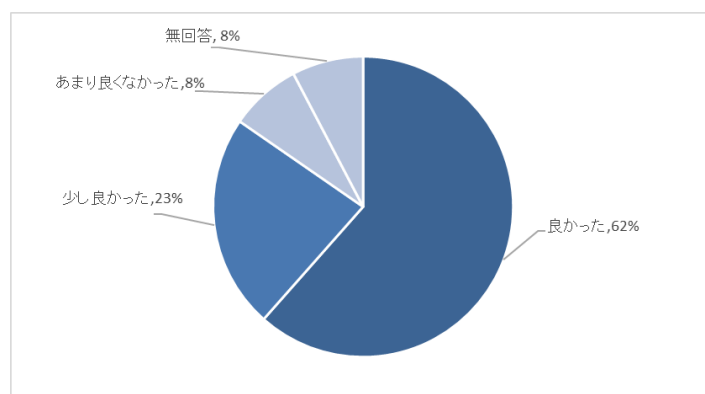
《内訳》・参加者 16人（参加者 6人、三重県議会議員10人）
・傍聴者 14人

○アンケート回答者 13人（三重県議会議員を除く）

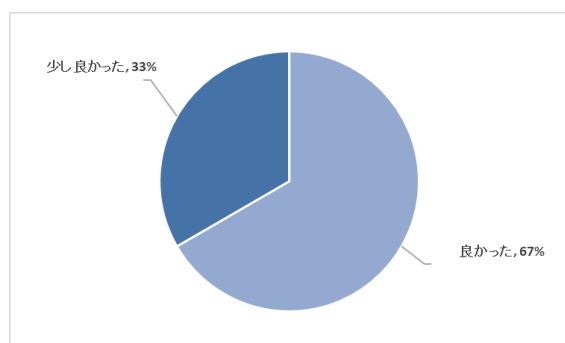
《内訳》・参加者 6人（回答率 100%）
・傍聴者 7人（回答率 50%）

Q1 本日の会議の感想をお聞かせください

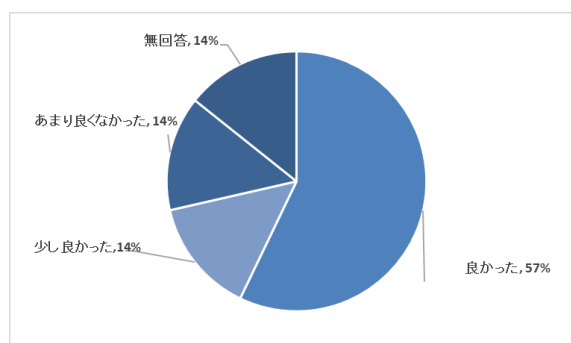
<全体（参加者+傍聴者）>



<参加者>



<傍聴者>



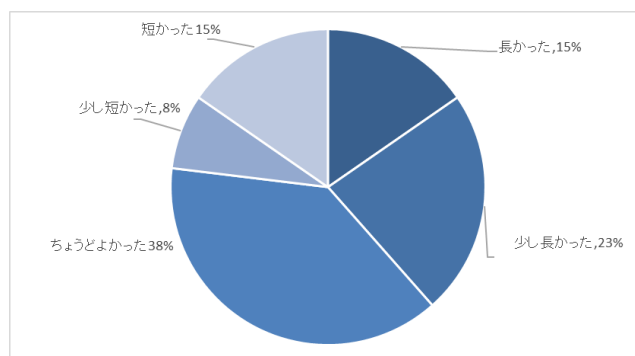
Q2 本日の会議についてお気づきの点がございましたらご記入ください

(○参加者、●傍聴者)

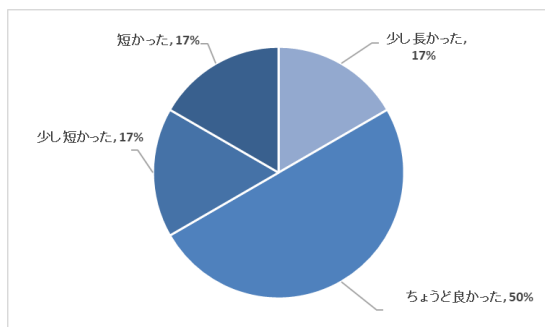
- 力強い実行力で進めてください。
- 自分の知らない山の実情を知ることができてよかった。
- 意見交換ができた。
- 議員からの質問が少ない。
- 県議会を身近に感じ良い企画だった。こういう機会を増やしていただきたい。
- 今日の関係者の意見を今後の施策に反映させていただくことを切望します。
- 意見は短くまとめて発表してほしい。全体の時間配分も考えてほしい。
- 時間配分がうまくいってなかったのではないかと感じた。
- 傍聴した率直な感想から言うと、真剣に話をきいていただいているとは思いますが、少し携帯を触っていたり、見ている気が付けたほうがいいのかと感じました。
- 単なる聞きとり調査だったんですね。
- 林業の現状を聴くことができてよかったが、もう少し県議からの意見があってもよかったのではないかと感じた。
- 参加者のお話に対する県議の現段階でのお考えや認識をもっと伺えればよかったと思います。(県議の発言を増やす)。
- 県議からの質問は4人のみだったのが残念でした。

Q3 本日の会議の時間の長さについて適切であったかお聞かせください

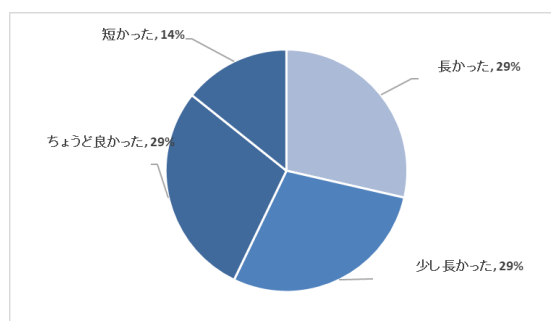
＜全体（参加者＋傍聴者）＞



＜参加者＞



＜傍聴者＞



Q 4 今後の「みえ現場 de 県議会」の開催テーマ・開催場所などについて、ご提案がございましたらご記入ください

(○参加者、●傍聴者)

- 三重の観光について。各地の特色が違うので、それぞれの環境で話をしていただきたい。
- 本日の参加者からの要望をどう活かしたか、どう動き出すか、結果を知りたいです。